

# 人を惹きつける“磁場”マスター

## 高橋 毅 (たかはし つよし) さん

1980年生まれ。神奈川県横浜市出身。高校卒業後、進学のために北海道へ、その後北海道大学大学院農学部森林資源学科卒業後、リクルート北海道じゃらんへ入社。地域振興グループに所属し新ご当地グルメ開発などに携わる。その後、東京のITベンチャー株式会社まぐまぐに転職しウェブメディア立ち上げなどに参加したのち、2016年に栗山町地域おこし協力隊として北海道栗山町に着任。2018年合同会社「オフィスくりおこ」を立ち上げる。



北海道に移住（Iターン、Uターン）して、新たな取り組みを行う輝く人を紹介するインタビューが始まります。お話しを伺うのは、北海道各地を探訪し想いを形にする人との出会いをつなぐ、地域プロデューサーかとうけいこさん。

第1回目は栗山町に2018年春に生まれた地域ベンチャー会社「オフィスくりおこ」の高橋毅さんです。

### 地域おこし協力隊だったと聞きました

2016年4月に栗山町地域おこし協力隊に着任、2019年3月に3年間の任期が終わりました。任期中はふるさと納税や観光振興、移住促進などのまちおこし業務に携わりました。また、栗山町の認知度向上のためにホームページやfacebookなどのSNSを使って、話題性のある見せ方を自分たちなりに工夫して発信していきましました。面白がってやっていましたね。役場の担当者もそれを許してくれる雰囲気があってありがたかったです。

活動の中で、僕たちを温かく迎え入れてくれた栗山

の皆さまが好きになり、自分もこの町で暮らしていきたいな、という思いが強くなりました。東京のイベントと一緒に出席した農家の方に「栗山に残りなよ」と言われたのは嬉しかったですね。

### 会社を興した理由やきっかけは何でしょうか

僕にとって栗山は居心地の良い町なのですが、若者がどんどん減ってまちの活気がなくなっている印象を受けました。この状況に危機感を感じて、自分たちよそ者にも何か出来るのでは、と思うようになりました。簡単ではありませんが、人口減少のスピードを少しでも抑え、移住者を増やす方法を見つけて行動しなくては、と考えるようになりました。

役場の担当職員や応援して下さる町民の方々に支えていただき、協力隊の仲間と共に、「栗山町を若者がいきいきと活躍できるまちにしたい」と目標を掲げて、【若者のまちクリヤマ プロジェクト】を立ち上げました。これを実現するためにも、自分自身の仕事と居場所が必要と考え、2018年4月に「合同会社オフィ

スクリおこ」を立ち上げました。

### カフェバー「くりとくら」を商店街に作った理由は

まず、町内に「にぎわい」を生み出そうと思いました。栗山町内外の若者が集い、自分たちに出来ること、これからチャレンジしてみたいことを語る場が必要じゃないかと。ビジネスのヒントはそういうリラックスした中から生まれてくるのではないですかね。そこで生まれたビジネスのタネを育てていけば、いずれ町の「なりわい」となるのではと考えています。その「なりわい」が新しい雇用を生むと。仕事がないと移住もできないですしね。

あとは単純に、地元や札幌の友達が私に会いに、栗山に遊びに来てくれたときに、町のものを食べ、地酒を飲みながら、ゆっくり話せるような場がなくて残念に思っていたので、ないなら自分たちで作ろうと。

### カフェバーの立ち上げにも一工夫されたと

町と連携して、ふるさと納税を活用したガバメントクラウドファンディングを行いました。若者が夢にチャレンジして、活躍できる町にしたいという思いに賛同してくれた方々411人から支援を頂いて、目標の300万円の約2倍にあたる、6,099,000円が集まりました。温かいコメントも頂きとても感動しました。

寄附を活用し、内装工事はワークショップ形式で町民と一緒にDIYで作りました。椅子やソファなどの家具も栗山の家具職人の製品を使うなど、栗山のショールームを目指しています。

こういう背景でスタートしたこの場所を、町内外の『ヒト・モノ・情報』があつまる場として持続的に運営していくことが僕たちの役割です。栗山は良くも悪くも突出した何かがある町ではないと思うので、栗山町で出来ることは日本中の地方で応用可能だと考えています。都会ではなく、地方での起業のモデルケースになれば嬉しいですね。

#### \* コミュニティツーリズム

その町ならではの歴史、文化、産業、暮らしなどの魅力を味わう観光。観光客を受け入れて地域の新しいビジネスをつくり、町の活性化を図る。観光の主流をなしてきたマストツーリズムの対極ともいえる。

### 「くりとくら」について教えてください

「cafe&barくりとくら」は2018年11月にオープンしました。キャッチフレーズは「地域密着型カフェバル」ですかね。月～土曜日の19:00から営業しています。ランチは完全予約制で、栗山ランチコースを出しています。特徴は、生産者との繋がりを活かして農家さんから旬の野菜を直接仕入れていること、そして、管理栄養士であり北海道フードマイスターでもある「オフィスくりおこ」代表の石井翔馬が調理を担当していることですね。町内にある北海道最古の酒蔵「小林酒造」のラインナップは自信がありますよ。

### 宿泊施設もこの7月からスタートすると聞きました

「くりとまる」という宿泊施設をオープンさせる予定です。「cafe&barくりとくら」の物件は一軒家を丸々借りているんです。現在は一階が飲食店、二階で栗山町ふるさと納税業務のオフィスを構えているのですが、まだスペースがあります。そこを活用して、宿泊施設とシェアハウスを運営しようと考えています。

飲食店スペース「cafe&barくりとくら」、生活居住スペース（シェアハウス）、宿泊スペース（ゲストハウス「くりとまる」）の重なった部分に、宿泊者と町民およびスタッフとの新たなコミュニティが生まれ、栗山町ならではのコミュニティツーリズム\*を作れるかなと思っています。

### 今後について教えてください

僕たちは栗山町役場や栗山町民、僕たちのまわりの様々な方に支えられて、ローカルベンチャーを起業し、今も栗山町で生活できています。このローカルベンチャー起業のバトンを次の世代に繋げていきたい。若者が夢にチャレンジできる町【若者のまちクリヤマ】を形にしていきたいですね。起業や地域おこし協力隊に興味のある人は、どんどん店や宿に来てもらいたいです。

#### インタビュー後記

大学院時代にキノコを求めて全道行脚。山の中で信じられないほど美しい景色に出会い感動しまくる。有名観光地でないところが素晴らしいことを伝えたいと思ったと語る高橋さん。ピュアな人でした。

かとうけいこ (株)まちづくり観光デザインセンター代表